

米はみんなの宝物

蛇田小学校 四年 高橋 陸

「陸、ごはんいつも残さず食べてえらいね。ほくの茶わんを見るたびに、お母さんやおばあちゃんと言います。そのたびに、
「だつて米つぶの中には、神様がいて聞
いたよ。」
そう言い返すと、いつもお母さんはいっこり
ほほえみます。」

ほくのおばあちゃんの家は農家で、田んぼ
や畑をもっています。昔はそこで米や野さい
を作つて食料にしていたそうです。お母さん
も小さいころは米作りを手伝っていました。
その時にびいちゃんか歌っていた歌がわすれ
られないと言います。

米という字を分せきすればよ
八十八たびの手がかかる
お米一つもそまつにならぬ

米はわれらの親じゃもの

ほくはその歌の意味が知りたくて、おばあちゃん

んに聞いてみました。すると米作りには八十
八回以上の手間をかけているので、米つぼー
ったりともむだには出来ないこと、米にはた
くさんの栄養があり、生きるためには欠かせ
ないものだという意味が込められているそう
です。また昔の米作りは、ほとんどが手作業
で大変だったことや、いねの生長に合わせて
仕事があるため、ほとんど休みがなかったこ
とも教えてくれました。ぼくは、何気なく食
べているお米が、そんなにも時間をかけて育
てるものなのかとおどろきました。そして、
手間をかけて作る米だからこそ本当に神様は
いるかもしれない、もつとお米を大事に食べ
なければとあらためて思いました。

今は主食というと、米の他にパンやめん類
などぼうふにがあります。いろいろあつてまよ
うぐらいです。そのためか、テレビ等で米が
あまつているということをよく聞きます。お
はあちゃん、
「手間をかけて作つたお米が食べられないの

はもったいない。粉に加工して主食以外にも使われればいいのにね。

と言っていました。ぼくも給食に米粉パンが出たり、でんぷんのりとして使われたりしているのを見たことがあります。そのような開発がもっとな進めばいいのと思います。そうすれば、米があまるようなことがなくなるのではないでしょう。また、ぼくはかせをひくと必ずおかゆが食べたくなります。あまくてトロトロしていて温かいおかゆを食べると元気がでます。栄養がたくさんあることや体にやさしい食べ物だと言うことをもっとうちに伝えていくことも大切だと思います。

ぼくは来年、米作りの学習をします。手作業はとても大変そうですが、手間をかければキョーと宝の米ができると思っています。その体験で感じたことと共に、あの歌詞の意味やお米の大事さを、妹や友達、そしてみんなに伝えていきたいと思っています。